

# 会 報

No.43 (1992年11月)

## 目 次

◆第15回 日本分子生物学会年会のお知らせ(その3) .....	1
◆1991年度会計収支決算報告 .....	4
◆1991年度会計監査報告 .....	5
◆第15回 総会のご案内 .....	5
◆文部省科学研究費について .....	5
◆次期評議員選挙と会員名簿について .....	6
◆各種研究助成などへの本学会推薦について .....	6
◆各種シンポジウムのお知らせ .....	7
○「分子神経生物学国際シンポジウム」 —脳、皮膚、免疫系に共通するメカニズム— .....	7
○BMED '92のご案内 .....	8
○第2回 アンチセンスシンポジウム予告 .....	9
○平成4年度文部省科学研究費重点領域研究 公開シンポジウム「RNA機能構造の新視点」 .....	10
○第7回「大学と科学」公開シンポジウム 「タンパク質は変化する—癌、老化、糖尿病に挑戦する生命科学」のご案内 .....	11
○第7回「大学と科学」公開シンポジウム 「生殖系列 — 親から子への生命の流れ」 .....	12
○日本組織培養学会・細胞工学シンポジウム 「細胞の機能再現を重視した培養システムの構築」 .....	12
○千里ライフサイエンス振興財団各種セミナーのご案内 .....	13
◆長瀬科学技術振興財団平成5年度助成候補者募集 .....	17
◆第1回(平成4年度)木原記念財団学術賞について .....	19
◆日本学術会議だより .....	21

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

## ◆第15回 日本分子生物学会年会のお知らせ(その3)

年会のプログラムの印刷ができましたのでお届けいたします。なお、年会についてのお問い合わせ、各種のご連絡は下記宛にお願いいたします。

〒565 豊中市新千里東町1-4-2 千里ライフサイエンスセンタービル14階

学会センター関西内

第15回 日本分子生物学会年会係

TEL : 06-873-2301 FAX : 06-873-2300

### 参加手続きについて

1. すでに年会参加費を払い込まれた方は、11月20日頃にお送りするネームプレート(領収証兼用)に、当日は名前をお書きになり、胸に着けてご入場下さい。

また、講演要旨集の発行予定日は11月20日で、その後すみやかに発送予定です。

2. 当日受付は、12月7日午前8時30分より国立京都国際会館の1階ロビーの受付で行います。

当日、参加費を支払われる方は、年会参加費 会員6,000円(ただし、学生会員は5,000円)、非会員7,000円をお支払いのうえ、年会講演要旨集とネームプレートを受け取ってご入場下さい。ネームプレートは会場内では常にご着用願います。

3. 懇親会は12月9日午後6時より国立京都国際会館内「さくら」にて開催いたします。費用は5,000円です。奮ってご参加下さい。

4. 講演要旨集のみ、購入されたい方は、会報No.42に同封してお配りしました振替用紙にてご送金のうえ、お申込み下さい(1部:会員2,000円、非会員4,000円)。

### シンポジウム・口頭発表についての注意事項

第15回 日本分子生物学会年会において、シンポジウム・口頭発表を予定しておられる方は、下記の注意事項を読んで準備をして下さい。

1. 講演者は、講演の30分前までに該当会場の入口のスライド・座長受付で、各自スライドホルダーにスライドを入れ試写して下さい。

2. スライドは35mm判とし、プロジェクターは1台です。同一スライドを2回以上使用する場合はできるだけ映写回数分をご用意下さい。口頭発表でのスライドの枚数は10枚以内としてご準備下さい。

3. 講演はすべて座長の指示に従って下さい。シンポジウムは、講演時間、討論時間が、演題毎に異なりますのでご注意下さい。

口頭発表は、講演時間が10分、討論時間が2分となります。

## シンポジウム・口頭発表の座長の方への注意事項

第15回 日本分子生物学会年会において、シンポジウム・口頭発表の座長の方は、下記の注意事項を読んで準備をして下さい。

1. ご担当時刻の30分前までに該当会場の入口のスライド・座長受付までご連絡下さい。
2. 会場内での写真およびビデオの撮影は禁止しますので、運営上ご留意下さい。
3. シンポジウムは、演題毎に講演時間、討論時間などが異なります。各シンポジウムの進行は座長にお任せしますので、よろしく願いいたします。口頭発表は、講演時間が10分、討論時間が2分となりますのでよろしく願いいたします。

## ポスター発表についての注意事項

第15回 日本分子生物学会年会において、ポスター発表を予定しておられる方は、下記の注意事項を読んで準備をして下さい。

1. ポスター発表演題には4ケタの発表番号がつけてあります。最初の数字は年会何日目であるか、次の3ケタの番号は掲示パネルの番号を示しています。要旨の前に同じ番号がつけられています。

発表番号についてはプログラムをご覧ください。

2. パネル上の掲示に使えるスペースは、150cm × 150cm で両側に約30cmの間隔があります。ポスター上部に、発表番号・演題・発表者名・所属を大きな字で書いて下さい。見学者が特定のポスターを見いだすのに便利なように、演題・発表者名・所属は少なくとも5～6m離れた位置からも明瞭に見える大きさにして下さい。なお、代表発表者名の前に○印をつけて下さい。
3. 発表は簡単な序論と結論を含めるようにして下さい。言語は日本語か英語でお願いします。
4. 2～3m離れたところからも読めるように、十分大きな字を書いて下さい。図・表等もできるだけ大きなものにして下さい。
5. ポスターの様式は自由です。パネル表面は、ベージュ色の表装をしております。カラーインクを用いて色分けする、図解を用いる、色付きの台紙に貼るなど見やすいものにする工夫をして下さい。
6. ポスター掲示およびポスターの取付け・取外しの時間は下記の通りです。時間を守るようにして下さい。取付けに必要な押しピンはポスター発表者受付に準備してあります。

9:00～19:00 ポスター掲示（最終日は17:30まで）

8:30～9:00 取付け（第2、4日目に発表の分については各前日の19:30～20:00でも可）

- 9 : 30 ~ 10 : 30 口頭説明 (演題番号が奇数のポスター)
- 10 : 30 ~ 11 : 30 口頭説明 (演題番号が偶数のポスター)
- 19 : 00 ~ 19 : 30 取 外 し (最終日は 17 : 30 ~ 18 : 00)

7. 指定された口頭説明の時間帯には説明・討論ができるようにポスターの掲示場所に代表発表者が待機して下さい。

#### ミニシンポジウム・テクニカルセミナーについてのお知らせ

1. ミニシンポジウムが6セッション計画されております。第1, 2日目の夜と第3日目の午前に行われます。詳細は講演要旨集に掲載されます。
2. テクニカルセミナーが5セッション計画されております。第2日目の午前と第3日目の午前、午後に行われます。詳細は講演要旨集で紹介されます。

◆1991 年度会計収支決算報告

1991 年度学会会計収支決算は以下の通りになりましたので報告いたします。

1991 年度日本分子生物学会収支決算書（1991 年 4 月 1 日～1992 年 3 月 31 日）

収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
学 会 費	8,750,000	11,363,475	入会金 785,000 正会員 8,160,500 学生会員 2,234,500 外国会員 183,475
賛 助 会 費	1,080,000	1,080,000	
預 金 利 子	400,000	571,473	
雑 収 入	300,000	157,440	印税等
小 計	10,530,000	13,172,388	
前 年 度 繰 越 金	10,000,000	10,211,755	
総 計	20,530,000	23,384,143	

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
事 業 費	2,700,000	3,009,685	
会 報 発 行 プ ロ グ ラ ム 特 別 講 演 謝 金 第 15 回 年 会 補 助	900,000 600,000 200,000 1,000,000	1,039,685 670,000 300,000 1,000,000	第14回 年会 "
評 議 委 員 会 費	800,000	696,299	
委 員 会 費 役 員 選 挙 名 簿 作 製 費	800,000 0	696,299 0	
業 務 委 託 費	4,000,000	5,312,988	(財)日本学会事務センター
一 般 事 務 費	2,985,000	3,558,238	
用 品 費 印 刷 費 通 信 費 事 務 謝 金 雑 費	5,000 80,000 2,800,000 50,000 50,000	0 145,620 3,322,081 0 90,537	
準 備 金	8,000,000	8,000,000	将来事業のための準備金
予 備 費	500,000	550,000	庶務事務費
小 計	18,985,000	21,127,210	
次 年 度 繰 越 金	1,545,000	2,256,933	
総 計	20,530,000	23,384,143	

#### ◆1991 年度会計監査報告

1992年9月24日、会計簿、預金通帳、領収書、学会センター出納記録などの監査を行い、決算に誤りのないことを確認しました。

日本分子生物学会第7期会計監査

池田日出男 ㊟

山本正幸 ㊟

#### ◆第15回 総会のご案内

年会会期中に、日本分子生物学会第15回総会を下記により開催いたしますので、ご出席をお願いします。

記

日 時：1992年12月9日（水）午後1：30～2：30

場 所：国立京都国際会館メインホール

次 第：1. 経過報告

2. 議 題

- i) 前年度会計収支決算承認の件
- ii) 来年度事業計画および予算承認の件
- iii) その他

#### ◆文部省科学研究費について

一般研究（C）について、平成3年度から3年間の「時限付き分科細目」のひとつとして「分子細胞生物学」が設定されました。日本学術会議より本細目の審査委員候補者4名の推薦依頼が本学会にありましたので、評議員の選挙によって4名の方を選び、日本学術会議に推薦しました。

また、従来からあった「生物物理学」分科中の「分子遺伝学・分子生理学」の細目についても、日本生物物理学会との協議のうえ、本学会からも審査委員候補者を推薦しました。

#### ◆次期評議員選挙と会員名簿について

日本分子生物学会会則第 11 条と同細則第 7 条によって、第 8 回評議員選挙が 1993 年 2 月に行われます。この選挙のための会員名簿が今年 12 月 10 日現在のデータをもとに発行される予定ですので、勤務先や住所の異動があった会員は速やかに事務局（下記）までお知らせください。

〒113 東京都文京区本駒込 5-16-9 学会センターC 21

(助)日本学会事務センター内 日本分子生物学会

会員業務 TEL: 03-5814-5810, FAX: 03-5814-5825

学会業務 TEL: 03-5814-5801, FAX: 03-5814-5820

#### ◆各種研究助成などへの本学会推薦について

- 平成 4 年度（第 19 回）日産学術研究助成候補者として、本学会選考委員の意見にしたがい、下記 13 件を推薦した。

[一般研究 (A)]

堀越 正美（東大・応微研）、西本 毅治（九大・医学部）

[一般研究 (B)]

小林 裕和（静岡県立大・生活健康科学研究科）

川上 潔（自治医科大・医学部）

[奨励研究]

生田 宏一（東大・医学部）、石野 知子（東工大・遺伝子実験施設）、

菅澤 薫（理化研）、川上 浩一（東大・医科研）、

有賀 早苗（北大・医療技術短大）、佐藤 仁彦（岐阜薬科大・生物）、

佐藤 孝雄（徳島大・工学部）、河本 健（高知医科大）、

竹本 経緯子（京大・ウイルス研）

- 1992 年度（第 5 回）東燃研究奨励賞候補者として下記 2 名を推薦した。

篠原 彰（大阪大・理学部）

鈴木 信弘（秋田県立農業短大附属・生物工学研）

- 平成 4 年度 上原賞候補者として下記 1 名を推薦した。

畑中 正一（京大・ウイルス研）

- 平成 4 年度（第 33 回）東レ科学技術研究助成候補者として下記 1 名を推薦した。

半田 宏（東工大・生命理工学部）

## ◆各種シンポジウムのお知らせ

### ○「分子神経生物学国際シンポジウム」

—脳、皮膚、免疫系に共通するメカニズム—

資生堂では、創業120周年を記念した科学シンポジウム「ヒューマン・ヘルス・サイエンスと皮膚」のサテライトシンポジウムとして、「分子神経生物学国際シンポジウム—脳、皮膚、免疫系に共通するメカニズム—」を次のとおり開催します。

会 期：1992年11月13日（金）

会 場：日仏会館（東京都千代田区神田駿河台2-3 TEL：03-3291-1141）

プログラム（予定）：

・特別講演 ジーンターゲットング：哺乳類の記憶と学習の分析への新しいアプローチ（マサチューセッツ工科大 利根川 進教授）

・セッション①神経系、免疫系、皮膚と細胞栄養分子

・神経—皮膚の細胞栄養因子相互作用

（マクマスター大 Diamond教授）

・脳の神経細胞の生存を促進するタンパク質の探索

（マックスプランク研究所 Barde教授）

・アミロイドタンパクと痴呆におけるその役割の研究

（ハーバード医大 Potter助教授）

②情報伝達機構

・嗅覚受容器をコードしている遺伝子ファミリーの探索

（ハーバード医大 Buck助教授）

・神経伝達物質と薬物受容器の構造

（京大 中西重忠教授）

・神経伝達物質と細胞栄養因子、薬物によって活性化されるプロテインキナーゼ（神戸大 高井義美教授）

③神経発生・形態形成の分子細胞生物学

・神経細胞成長のメカニズム

（東大 廣川信隆教授）

・細胞間及び細胞—マトリックス間の接着を促進する分子—

（京大 竹市雅俊教授）

・体験、薬物、神経栄養因子による神経伝達遺伝子の制御

（ハーバード医大 Hyman助教授）

・神経細胞間の結合（シナプス）の形成

（ハーバード医大 Fischbach教授）

募集人員：350名

募集締切り：1992年10月15日

参加費：5,000円（税込み）

参加登録方法：ハガキまたはFAXにて「サテライトシンポジウム参加希望」と明記  
のうえ、「郵便番号」「住所（連絡先）」「氏名」「年齢」「電話番号」  
を添えて事務局へ申し込む

事務局：〒141 東京都品川区西五反田3-9-1  
（株）資生堂研究開発本部学術部内  
サテライトシンポジウム事務局  
FAX：03-3490-6950

問い合わせ先：TEL：03-3493-9356（電話での登録申込み不可）

#### ○BMED '92のご案内

「4th International Symposium on Bioelectronic and Molecular Electronic Devices」（第4回バイオ素子国際シンポジウム）

開催期日：平成4年11月30日（月）～12月2日（水）

開催場所：（宮崎市）サンホテルフェニックス 宮崎国際会議場

目的：新機能素子研究開発に関与する国内外の研究者が一堂に会し、合宿形式により研究開発の現状、問題点、将来方向等について報告討論することによって、新機能素子研究開発の推進と技術情報の国際交流に資することを目的とする。

内容：バイオ素子、分子素子、脳科学、ニューラルコンピューティングに関する最新の研究成果の発表とディスカッションを行う。

構成：セッションはプレナリー講演のほかに、大別して以下の2つのカテゴリーに関する口頭発表およびビジュアル（ポスター）発表、ランプセッション等から構成される。

- ・学習と記憶
- ・生体分子および合成分子の自己組織化

会議言語：講演、予稿集ともに英語。

論文募集：口頭発表は招待講演のみで、一般からの講演募集は行わない。

ビジュアル・プレゼンテーション（ポスター発表等）は、広く一般からの論文を募集。

学会参加費：一般45,000円、大学および公的機関40,000円

開催案内：1st Circular希望者は、下記まで連絡して下さい。

事務局：〒105 東京都港区虎ノ門4-1-21 葺手第2ビル

(財)新機能素子研究開発協会

バイオ素子研究開発課 小林 敏昭

TEL：03-3434-3871 FAX：03-3434-7320

○第2回 アンチセンスシンポジウム予告

主催：アンチセンスDNA/RNA研究会

協賛：日本分子生物学会、日本生化学会、日本化学会、日本薬学会ほか

日時：平成4年12月14日(月)～15日(火)

会場：国立京都国際会館(京都市左京区宝ヶ池、075-791-3111)

本シンポジウムはアンチセンスDNA/RNA研究に携わる研究者が化学、薬学、医学、生物学など幅広い分野から集まり、基礎から応用までの研究内容を自由に討論し、また互いに情報や意見交換を行うことができる数少ない機会です。一般講演は総数25件程度(講演15分、討論5分)を予定しています。講演内容は「アンチセンス」に関する研究であればよく、特に限定しません。また、討論を目的としておりますので既発表の内容でも構いません。

講演申込締切：平成4年9月1日(火)

B5判大の用紙に①演題、②所属、③氏名、④連絡先(住所、電話、ファクシミリ)⑤和文要旨(200字程度)を明記し下記の連絡先までお申し込み下さい。

講演要旨締切：平成4年11月14日(土)

詳細は後日講演申込者に連絡します。

参加申込締切：平成4年11月21日(土)

氏名、所属、連絡先(住所、電話、ファクシミリ)を明記の上、郵便振替(京都4-77211、アンチセンスDNA/RNA研究会)にてお申し込み下さい。

参加費：一般3,000円、学生1,500円(当日登録 一般4,000円、学生2,000円)

懇親会：平成4年12月14日(月)17:30より同会館にて開催します。参加費：一般5,000円、学生3,000円。原則として予約制とします。参加申込時にお申し込み下さい。

連絡先(事務局)：〒606 京都市左京区松ヶ崎御所海道町

京都工芸繊維大学繊維学部高分子学科内

アンチセンスDNA/RNA研究会

TEL：075-791-3211(内線)769(村上)

FAX：075-722-2938

○平成4年度文部省科学研究費重点領域研究

公開シンポジウム「RNA機能構造の新視点」

日時：平成5年1月11日（月）13：00～17：00

場所：虎ノ門パストラル

〒105 東京都港区虎ノ門4-1-1

電話 03-3432-7261

（地下鉄日比谷線神谷町駅より徒歩2分）

主催：文部省科学研究費重点領域研究

「RNA機能構造の新視点」

領域代表者 横山 茂之

プログラム

1. tRNAのアイデンティティーはどのようにして決まるか  
横山茂之（東大・理）
2. ショウジョウバエの生殖系列分化におけるミトコンドリアlarge ribosomal RNAの役割  
小林 悟（筑波大・生物科学）
3. RNAの自発的ライゲーションとその進化的意義  
西郷 薫（東大・理）
4. RNAスプライシングによるショウジョウバエの性決定制御機構  
志村令郎（京大・理）

来聴歓迎（無料）

連絡先：〒113 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学工学部工業化学科

渡辺 公綱，河合 剛太

TEL：03-3812-2111 内線7216

FAX：03-5800-6950

○第7回「大学と科学」公開シンポジウム

『タンパク質は変化する－癌、老化、糖尿病に挑戦する生命科学』ご案内

日 時：平成5年1月14日（木）～15日（金）

会 場：大阪フェスティバル・リサイタルホール

〒530 大阪市北区中之島2丁目3番18号

TEL：06-203-7027／203-7966

セッション代表：谷口 直之（大阪大学医学部教授）

日 程：1月14日（木）総合講演「からだのタンパク質の一生」

勝沼 信彦（徳島文理大学教授）

一般講演「タンパク質の姿」、「タンパク質の誕生とその加工」、「老化と糖尿病にかかわるタンパク質の変化」他

1月15日（金）特別講演「睡眠を司るタンパク質－プロスタグランジンD合成酵素－」

早石 修（大阪バイオサイエンス研究所所長）

一般講演「ヒトのタンパク質の分解のしくみと病気」、「癌にかかわるタンパク質の変化」他

参加費：無 料

申込方法：参加申込書をご希望の方は、

①連絡先、電話番号

②氏名

③希望部数（1部につき4名までお申し込みいただけます）

を官製ハガキにご記入の上、下記宛先までご送付下さるか、FAXで必要事項をお書きになったものをお送り下さい。

申込み／問合せ先：〒600 京都市下京区塩小路通新町西入ル新京都センタービル5F

（株）ジェイコム内「タンパク質は変化する」事務局

TEL：075-341-1618 FAX：075-341-1917

第7回「大学と科学」公開シンポジウム  
『生殖系列—親から子への生命の流れ』

—開催のお知らせ—

日 時：平成5年2月17日(水)・18日(木)  
会 場：有楽町朝日ホール(千代田区有楽町2-5-1)  
主 催：第7回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会  
後 援：文部省/日本分子生物学会  
参加費：無 料

17日(水)

総合講演：連続する生命—生殖と生殖系列— 毛利秀雄  
特別講演：動物の生殖行動における利己と協同 日高敏隆  
♂と♀ 高橋迪雄、中込弥男、安部真一、岸本健雄  
卵と精子の出会い 星 元紀、片桐千明、星 和彦、豊田 裕

18日(木)

親と子のきずなの始まり 舘 鄰、森 崇英、村松 喬、森 庸厚  
生殖のバイオテクノロジー 岩倉洋一郎、入谷 明、帯刀益夫、野口基子

申込方法：聴講ご希望の方は葉書に、①氏名、②住所(勤務先か自宅かを明記)、  
電話番号、③参加日時、④職業(勤務先)、をご記入の上、事務局宛  
に送付願います。聴講希望者が多数の場合は抽選となります。

申 込 先：〒102 千代田区富士見2-3-1信幸ビル  
クパプロ内『生殖系列』事務局  
TEL03-3238-1689 FAX03-3238-1837

参加申込締切：平成5年2月10日(水)

○日本組織培養学会・細胞工学シンポジウム

「細胞の機能再現を重視した培養システムの構築」

—発生学、薬理学、臓器工学の接点を目指して—

場 所：東京医科歯科大学 1号館 9階 特別講堂

開催日時：1993年1月29日(金) 10:30～17:05 (終了後懇親会を開催します)

プログラム：

- 10:30～10:35 ご挨拶<日本組織培養学会細胞工学委員会 委員長 小林茂保>  
10:35～10:40 ご挨拶<日本組織培養学会 会長 蔵本博行>  
10:40～11:25 形態形成の分子生物学 —カドヘリンからエピモルフィンへ—  
<バイオマテリアル研 平井洋平>  
11:25～12:10 細胞外マトリックス系と組織構築  
<東京医科歯科大・難治研 畑隆一郎>  
12:10～12:55 再構成培養皮膚を用いたがん研究 <東大・医科研 黒木登志夫>  
12:55～14:00 昼 食  
14:00～14:45 軟骨と骨形成の分子生物学 <阪大・歯 鈴木不二男>  
14:45～15:05 新しい神経軸索形成(伸長)因子 <横浜市大・医 堀江秀典>

15:05～15:30 中枢神経細胞のパターン形成を目指して  
＜バイオマテリアル研 渡辺芳明＞

15:30～15:45 休 憩

15:45～16:05 培養系での血管形成とその応用  
＜工技院・微生物工業技術研 三井洋司＞

16:05～16:25 マイクロキャリアー培養下での血管内皮細胞の機能亢進  
＜東レ・基礎研 佐野恵海子＞

16:25～16:45 ラ氏島細胞のマイクロカプセル化 –細胞移植を目指して–  
＜国立循環器病センター研 岩田博夫＞

16:45～17:05 肝臓の臓器工学 –培養系での人工臓器を目指して–  
＜東工大・生命理工 赤池敏宏＞

17:30～19:00 懇親会『グリル・セイント』(東京医科歯科大 1号館9階)  
実行委員会:小林茂保, 吉里勝利, 佐野恵海子, 赤池敏宏, 小山秀機, 野田浩一,  
増井 徹

会 費:	日本組織培養学会会員, 協賛学協会会員	非会員
学 生	1,000 円	2,000 円
大学・官公庁	2,000 円	4,000 円
企 業	4,000 円	8,000 円

(会費は当日会場にてお支払い下さい)

懇親会費:6,000 円

申込方法:お手紙またはFAXにて、参加者氏名、所属(住所、団体名、電話、  
FAX)、所属学協会をご記入の上、下記 申込先までお申込下さい。  
(先着 150 名で〆切らせていただきます。)

申 込 先:〒227 横浜市緑区長津田町 4259  
東京工業大学 生命理工学部 生体分子工学科 赤池 敏宏  
TEL:045-922-1111 内線2555 FAX:045-921-1089

#### ○千里ライフサイエンスセミナー①

「老化と老年病(1) –最近の進歩–」

日 時 平成4年11月27日(金) 午前10時～午後4時30分

場 所 千里ライフサイエンスセンタービル ライフホール

(地下鉄御堂筋線千里中央駅すぐ)

(大阪府豊中市新千里東町1-4-2)

主 催 財団法人千里ライフサイエンス振興財団

協 賛 株式会社千里ライフサイエンスセンター

コーディネータ・座長 大阪大学医学部教授 荻原 俊男  
大阪大学名誉教授 熊原 雄一

プログラム

1. 老化の指標と老人の正常値  
名古屋大学名誉教授（中津川市民病院院長） 葛谷 文男
2. 老化促進モデルマウス（SAM）  
京都大学胸部疾患研究所教授 竹田 俊男
3. 老化と遺伝子発現制御  
工業技術院微生物工業技術研究所首席研究官 三井 洋司
4. 老化、癌化とDNAのメチル化  
東北大学医学部教授 小野 哲也
5. 早老症の分子遺伝学  
大阪大学医学部講師 三木 哲郎

○千里ライフサイエンスセミナー②

「複合糖質研究を探る：分子認識から神経科学まで」

日 時 平成4年12月15日（火）午前10時～午後4時50分

場 所 千里ライフサイエンスセンタービル ライフホール

主 催 財団法人千里ライフサイエンス振興財団

協 賛 株式会社千里ライフサイエンスセンター

コーディネータ：大阪大学医学部教授 谷口 直之  
東京都臨床医学総合研究所長、理化学研究所  
国際フロンティア糖機能研究グループディレクター 永井 克孝

プログラム

1. 糖鎖生物学と神経科学の接点  
東京都臨床医学総合研究所長、理化学研究所  
国際フロンティア糖機能研究グループディレクター 永井 克孝
2. 糖に結合する接着分子を介した細胞認識  
東京大学薬学部教授 入村 達郎
3. フィブロネクチンと細胞認識  
大阪府立母子保健総合医療センター研究所長 関口 清俊
4. 糖脂質と神経科学  
理化学研究所国際フロンティアチームリーダー 平林 義雄
5. 細胞分化制御と糖脂質糖鎖  
自治医科大学教授 斎藤 政樹

6. 神経系糖鎖と細胞認識

京都大学薬学部教授

川崎 敏祐

○千里ライフサイエンスセミナー③

「細胞におけるシグナル伝達」

日 時 平成5年1月14日(木) 午前10時～午後5時30分

場 所 千里ライフサイエンスセンタービル ライフホール

主 催 財団法人千里ライフサイエンス振興財団

協 賛 株式会社千里ライフサイエンスセンター

コーディネータ：神戸大学医学部教授

高井 義美

プログラム

1. 免疫細胞シグナル伝達系におけるチロシンキナーゼの役割

東京大学医科学研究所教授

山本 雅

2. イノシトールリン脂質と情報伝達

東京大学医科学研究所教授

竹縄 忠臣

3. セリン/スレオニンキナーゼとシグナル伝達

東京大学理学部助手

西田 栄介

4. ホスファターゼとシグナル伝達

京都大学理学部教授

柳田 充弘

5. G蛋白質とシグナル伝達

神戸大学医学部教授

高井 義美

6. 細胞骨格・膜骨格とシグナル伝達

岡崎国立共同研究機構生理学研究所教授

月田承一郎

7. 細胞増殖とシグナル伝達 - 酵母をモデル系として -

名古屋大学理学部教授

松本 邦弘

○千里ライフサイエンスセミナー④

「幹細胞シリーズ第2回, リンパ球系」

日 時 平成5年2月3日(水) 午前10時～午後5時

場 所 千里ライフサイエンスセンタービル ライフホール

主 催 財団法人千里ライフサイエンス振興財団

協 賛 株式会社千里ライフサイエンスセンター

コーディネータ：大阪大学医学部教授

岸本 忠三

(財)千里ライフサイエンス振興財団 理事)

熊本大学医学部遺伝発生医学研究施設教授

西川 伸一

プログラム

1. リンパ球の発生・分化にかかわる分子  
大阪大学医学部教授 岸本 忠三
2. 血液幹細胞の純化とその機能の解析  
熊本大学医学部遺伝発生医学研究施設教授 須田 年生
3. 造血幹細胞の発生とT細胞分化  
東京大学医学部助教授 生田 宏一
4. B細胞分化とストローマ細胞  
熊本大学医学部遺伝発生医学研究施設教授 西川 伸一
5. T細胞の胸腺内分化  
京都大学胸部疾患研究所教授 桂 義元
6. NKおよびT細胞の胸腺外発生  
京都大学医学部教授 湊 長博

○千里ライフサイエンスセミナー⑤

「新しい実験医学の展開－遺伝子から個体へ－」

日時 平成5年2月12日(金) 午前10時～午後4時50分

場所 千里ライフサイエンスセンタービル ライフホール

主催 財団法人千里ライフサイエンス振興財団

協賛 株式会社千里ライフサイエンスセンター

コーディネータ：九州大学生体防御医学研究所教授 勝木 元也

プログラム

1. SCIDマウスの臨床への応用  
大阪大学医学部助手 佐伯 行彦
2. 細胞死と自己免疫疾患  
大阪バイオサイエンス研究所研究部長 長田 重一
3. ウイルス遺伝子機能の個体レベルでの解析  
東京大学医科学研究所助教授 岩倉洋一郎
4. ヒト遺伝子機能の実験的解析  
九州大学生体防御医学研究所教授 勝木 元也
5. ヒトのモデルとしてのマウス  
熊本大学医学部附属遺伝発生医学研究施設教授

山村 研一

○千里ライフサイエンスセミナー参加申込方法について

前記5種類の千里ライフサイエンスセミナーの参加申込要領は以下の通りです。

受講料（講演要旨集含む）

会 員（但し、大学、官公庁、当財団賛助会員、主催・協賛団体会員）	: 5,000 円
非会員	: 7,000 円
学 生	: 3,000 円

定員（各セミナー共） 200 名

参加申込方法 ①氏名 ②勤務先、所属、役職名、所在地、〒、電話、FAX番号  
③振込予定日を明記の上、葉書またはFAXで下記宛お申し込み下さい。参加費は申込後に各セミナー別振込銀行・財団法人千里ライフサイエンス振興財団口座宛開催日の3日前までにお振込下さい。なお振込の際、振込者の前に各セミナーに準じた記号をご記入下さい。ご送金確認次第、領収書兼参加証を送付いたします。

セミナー①「老化と老年病(1) -最近の進歩-」→

三和銀行本店営業部（普）No.1811008 振込記号R1

セミナー②「複合糖質研究を探る：分子認識から神経科学まで」→

住友銀行千里中央支店（普）No.128278 振込記号D2

セミナー③「細胞におけるシグナル伝達」→

大和銀行千里中央支店（普）No.4601085 振込記号E1

セミナー④「幹細胞シリーズ第2回、リンパ球系」→

大和銀行本店公務部（普）No.3093240 振込記号A2

セミナー⑤「新しい実験医学の展開 -遺伝子から個体へ-」→

住友銀行本店公務部（普）No.6262 振込記号T1

申込先（〒）千里ライフサイエンス振興財団

「(各セミナー名をご記入下さい)」セミナー係

〒565 大阪府豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル

TEL: 06-873-2001, FAX: 06-873-2002

担当: 松尾・江口

◆財団法人 長瀬科学技術振興財団 平成5年度 助成候補者募集

財団法人長瀬科学技術振興財団は、わが国の生化学および有機化学等の分野における研究開発および国際交流に対し助成等を行うことにより、科学技術の振興を図り、もって社会経済の発展に寄与することを目的として、下記のとおり平成5年度の研究助成を行う事といたしました。（詳細は長瀬科学技術振興財団までお問合せ下さい。）

## 記

### (1) 研究助成対象

- ①生化学および有機化学等の分野において研究活動を行う研究者または研究機関
- ②生化学および有機化学等の分野において研究調査を行う研究者の海外派遣または招聘生化学は次の分野とします。

- ・微生物の基礎および応用研究
- ・酵素の基礎および応用研究
- ・細胞培養の基礎および応用研究
- ・内因性防御物質の応用研究

有機化学は次の分野とします。

- ・  $\pi$  電子系機能材料の基礎および応用研究
- ・ 分子機能材料、機能分子デバイスの基礎および応用研究
- ・ 新規生理活性物質等の生体関連機能物質の合成研究

### (2) 助成対象期間

平成5年4月から平成6年3月末まで

### (3) 件数および金額

- |          |            |       |
|----------|------------|-------|
| ①研究助成金   | 1件 250万円程度 | 10数件  |
| ②国際交流助成金 | 1件 50万円程度  | 10件程度 |

### (4) 応募資格

- ①研究者であれば個人またはグループを問いません。
- ②同一内容で他の財団から既に助成を受けている個人またはグループはご遠慮願います。
- ③当財団に結果の報告書提出が可能な方。

(5) 応募の締切り 平成4年12月末日（必着）

(6) 交付の時期 平成5年4月予定

### (7) 応募要領および注意事項

- ①当財団所定の用紙に記入して応募して下さい。

応募ご希望の方、下記宛に はがき あるいは FAX等書面でご請求下さい。申請用紙を折返しお送りいたします。

- ②申請書は、正・副各1通提出して下さい。
- ③申請書は、ホッチキスでとめずに、クリップ等をお願いいたします。
- ④申請にあたりましては、1件の応募につき、1通の封筒をお願いいたします。
- ⑤当財団が申請書を受領したことをお知らせするため、宛名（郵便番号、住所、氏名、機関名等）をご記入の上、「返信用はがき」を同封下さい。

(8) 問合せ先

(財)長瀬科学技術振興財団

〒550-91 大阪市西区新町1丁目1-17

TEL : 06-535-2117 FAX : 06-535-2160

(東京連絡所 : 〒103 東京都中央区日本橋小舟町5-1

TEL : 03-3665-3021 FAX : 03-3665-3030)

◆第1回（平成4年度）木原記念財団学術賞について

(財)木原記念横浜生命科学振興財団より、生命科学の分野で優れた独創的研究を行っている者、とりわけ今後の生命科学の振興を支えるであろう若手の研究者に対して「木原記念財団学術賞」が授与されます。

この件につき、本学会が受賞候補者推薦依頼学会の1つに依頼されましたので、推薦を受けたい方は下記に従って応募して下さい。

1. 応募者の資格

推薦の対象は、最近において生命科学の分野で優れた独創的研究を行っている国内の研究者で、原則として50才以下の者とします。

また、推薦の研究課題で他の著名な賞を受けていないこととします。ただし、平成4年9月1日現在 日本分子生物学会会員であること。

2. 木原記念財団学術賞の内容

本賞は毎年原則として1件に贈呈します。

本賞は賞状、記念メダルおよび賞金200万円。

3. 応募方法および締切日

以下の書類などを平成4年11月5日必着で、日本分子生物学会「木原記念財団学術賞」係まで郵送する。応募書類などは返却しない。

- 1) 所定の応募用紙に必要事項を記載したもの（オリジナル1部および本会選考委員会用コピー5部）

2) 論文目録に記載された論文の別刷またはコピー各5部(ただし3編以内)

4. 応募用紙請求先

平成4年10月26日(必着)までに、宛先を記入した返信用B5判封筒(120円切手を貼ったもの)を同封して下記へ郵便で請求して下さい。

〒113 東京都文京区本駒込5-16-9 学会センターC21

(財)日本学会事務センター・学会業務

日本分子生物学会 係

TEL : 03-5814-5801 FAX : 03-5814-5820

5. 応募書類送付先

〒113 東京都文京区本駒込5-16-9 学会センターC21

(財)日本学会事務センター・学会業務

日本分子生物学会 係

6. 木原記念財団学術賞 第1回(平成4年度)受賞候補者推薦依頼学会

(50音順)

日本育種学会	日本生態学会
日本遺伝学会	日本生物工学会
日本ウイルス学会	日本生物物理学会
日本栄養・食糧学会	日本生理学会
園芸学会	日本先天異常学会
日本応用動物昆虫学会	日本畜産学会
日本環境変異原学会	日本動物学会
日本癌学会	日本土壌肥料学会
日本細菌学会	日本農芸化学会
日本細胞生物学会	日本発生生物学会
日本作物学会	日本ビタミン学会
日本蚕糸学会	日本病理学会
日本植物学会	日本分子生物学会
日本植物生理学会	日本放射線影響学会
日本植物病理学会	日本免疫学会
日本人類学会	日本薬学会
日本人類遺伝学会	日本薬理学会
日本水産学会	日本林学会
日本生化学会	

## 学術国際貢献特別委員会設置される

平成4年5月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議は、去る4月15日から17日まで第114回総会（第15期3回目の総会）を開催し、新たに「学術国際貢献特別委員会」を設置しました。今回の日本学術会議だよりでは、同総会の議事内容及び3月に開催されたAASSREC執行委員会等についてお知らせいたします。

## 旧ソ連邦の科学者に対する緊急の支援措置について（会長談話）

平成4年2月25日  
日本学術会議  
会長 近藤次郎

ソ連邦が解体したことに伴い、旧ソ連邦における多くの科学者は、研究の継続が困難となり、研究組織も崩壊の危機に直面していると伝えられており、これが事実とすれば、世界に与えるその影響は計り知れないものがあると思われる。

いうまでもなく、人類の進歩にとって科学の向上発展は不可欠のものであり、その意味で、今日の旧ソ連邦の実情は憂慮に堪えないところである。

この際、我々日本の科学者は、学協会等を通じる等の方法で、旧ソ連邦の科学者に対し、能う限りの支援を行う必要があると考える。

なお、旧ソ連邦の科学者と我が国の科学者との間の一般的な国際学術交流・協力をより一層充実するための方策等については、我が国の学術の分野における国際貢献の一環として、日本学術会議において引き続き検討することとしたしたい。

（注）

本談話は、日本学術会議において国際交流・協力問題について調査・審議を行っている第6常置委員会から2月14日(金)の連合部会に問題提起され、各部会で検討され審議を経た後、2月25日(火)の第785回運営審議会に提案され審議されたものである。

## 日本学術会議第114回総会報告

日本学術会議第114回総会（第15期3回目の総会）は、4月15日～17日の3日間開催された。

第1日（4月15日）の午前。まず、会長からの前回総会以後の経過報告及び各部・各委員会等の報告が行われた。次いで、今回総会に提案されている2案件について、それぞれ提案説明がなされた後、質疑応答が行われた。

第1日の午後。各部会が開催され、午前中に提案説明された総会提案案件の審議が行われた。

第2日（4月16日）の午前。前日提案された案件の審議・採決が順次行われた。

まず、「副会長世話担当研究連絡委員会の運営について（申合せ）の一部改正」が採択された。これは、「副会長世話担当研究連絡委員会運営協議会」という名称を「複合領域研究連絡委員会運営協議会」に改めるとともに、運営協議会のより円滑な運営を図るために、必要な措置を講じたものである。

次いで、「学術国際貢献特別委員会の設置について（申合せ）」が採択された。これは、学術の分野における我が国の国際貢献の在り方について検討するための特別委員会を設置したものである。

なお、審議・採決の終了後、さきに会長談話として発表した「旧ソ連邦の科学者に対する緊急の支援措置について（平成4年2月25日）」に関連して、旧ソ連邦の科学者の実情調査のために、当会議からロシアに派遣された第6常置委員会幹事の宅間会員から、その調査結果について報告が行われた。

第2日の午後。各部会が開催され、各部における懸案事項について審議が行われた。

第3日（4月17日）午前には、各常置委員会が、午後には、各特別委員会がそれぞれ開催された。

## 学術国際貢献特別委員会の設置

本会議は、昨年10月に開催した第113回総会における内閣官房長官からの学術の分野における我が国の国際貢献の在り方についての検討依頼を踏まえ、今回の第114回総会において学術国際貢献特別委員会を設置した。

去る3月23日から26日にかけて4日間、AASSREC (Association of Asian Social Science Research Councils) 執行委員会が日本学術会議の会議室で開催された。外国代表団は前AASSREC会長で現副会長のR・トリニダード教授(フィリピン社会科学協議会)、同じく副会長代りのJ・J・スモリッツ教授(オーストラリア社会科学アカデミー)、AASSREC事務局長のD・N・ダナガーレ教授(インド社会科学協議会)、同じく事務幹事のV・K・メータ博士(同上)のAASSREC側4理事と、タイ国バンコック駐在のUNESCO人間社会科学地域アドバイザーのY・アタル博士の5名。

日本側は、現AASSREC会長の川田侃日本学術会議副会長のほか、来年9月に川崎市のKSP(神奈川サイエンス・パーク)で日本学術会議が共催して開く予定の「AASSREC第10回日本総会」の組織運営委員会委員長山田辰雄教授(慶応義塾大学、アジア政経学会理事長)、同事務局長・平野健一郎教授(東京大学、アジア政経学会前理事長)、及び日本学術会議AASSREC専門委員会幹事浦田賢治会員(第2部)の3名がオブザーヴァーの資格で参加、連日、時間を措しむかのように、AASSRECの運営や来たるべき第10回総会の打合せなどについて、熱心な討議が続けられた。

また討議の合間を縫うようにして、外国代表団は近藤次郎日本学術会議会長表敬訪問、日本学術会議運営審議会における挨拶などのほか、川崎市にも赴き市長表敬訪問、KSP視察などを精力的に行った。日本学術会議も、近藤会長主宰のレセプションを催し、関係諸国の東京駐在大使館スタッフなどを招いて、アジア・太平洋地域における学術交流と発展のための意見交換の場を設け、友好的な雰囲気なかで談論が風発、至るところで談笑の花が開いた。

AASSRECはアジア・太平洋地域の社会科学領域における国際学術上部組織で、いわゆるアンブレラ・オーガニゼーションである。1973年にインドのシムラで「社会科学の教育・研究に関するアジア会議」が開かれた際に設立が合意され、それ以来UNESCOの協力のもとに発展を遂げてきた。AASSRECは加盟各国それぞれの文化的伝統を尊重しつつ、社会科学の研究、教育、知識の普及などを促進することを通して、この地域における社会科学の発達を図ることを目的に、加盟諸国の社会科学協議会、またはこれに類する団体(1国1会員)により構成されている。

加盟国はオーストラリア、インド、中国、ニュージーランド、フィリピンなど、1991年8月現在、15カ国であるが、(くに)会員のほかに、準会員の制度もあり、将来この地域の各国の学協会や研究所等が準会員としてAASSRECの活動に参加する道も開かれている。出版活動としては、隔年に開催される総会における諸報告やシンポジウムなどの出版のほか、定期刊行物「aassrec panorama」が年2回出されている。

AASSRECには最高決定機関である総会のほかに、会長、副会長(2名制)、事務局長の4名で構成される理事会が置かれているが、これにさらにUNESCOの地域アドバイザーが加わって開かれる執行委員会に事実上の運営権限があるようにみえる。今回、日本学術会議で開かれた会議はAASSRECとしては極めて重要な会議であったといえる。AASSRECはUNESCOによって承認された「非政府機関(NGO)」の地位をもち、絶えずUNESCOと緊密な関係を保っているが、同じくUNESCOによって承認されたNGOの地位をもつIFSSO(国際社会科学団体連盟)とも相互協力関係にある。

日本学術会議では、我が国において開催される学術関係国際会議のうち毎年おおむね6件について、学・協会と共同主催している。

本年もまた、6件の国際会議を共同主催することとしており、その概要は、次のとおりである。

#### ◆第5回世界臨床薬理学会議(7月26日～31日)

この会議は、臨床薬理学に関する研究を進展させるため討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として横浜市(横浜国際平和会議場)において開催される。

参加予定人数は3,000人(国外1,500人、国内1,500人)、参加予定国数は49か国。

#### ◆第14回国際平和研究学会総会(7月27日～31日)

この会議は、平和学に関する研究を進展させるため討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として京都市(国立京都国際会館及び立命館大学)において開催される。

参加予定人数は450人(国外250人、国内200人)、参加予定国数は45か国。

#### ◆第8回国際バイオレオロジー会議(8月3日～8日)

この会議は、バイオレオロジー学に関する研究を進展させるため討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として横浜市(横浜国際平和会議場)において開催される。

参加予定人数は500人(国外150人、国内350人)、参加予定国数は26か国。

#### ◆国際地質科学連合評議会及び第29回万国地質学会議

(8月24日～9月3日)

国際地質科学連合評議会は、同連合の最高決定機関であり、運営事項を協議、決定することを目的とするものである。また、万国地質学会議は、地質学に関する研究を進展させるため討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として京都市(国立京都国際会館)において開催される。

参加予定人数は5,300人(国外3,200人、国内2,100人)、参加予定国数は94か国。

#### ◆第9回国際光合成会議(8月30日～9月5日)

この会議は、光合成に関する研究を進展させるため討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として名古屋市(名古屋国際会議場)において開催される。

参加予定人数は1,000人(国外500人、国内500人)、参加予定国数は41か国。

#### ◆第11回国際光生物学学会議(9月7日～12日)

この会議は、光生物学に関する研究を進展させるため討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として京都市(国立京都国際会館)において開催される。

参加予定人数は1,000人(国外600人、国内400人)、参加予定国数は52か国。

御意見・お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291

— 共同主催国際会議閣議了解得る —

平成4年9月 日本学術会議広報委員会

平成5年度の日本学術会議の共同主催国際会議6件については、平成3年5月の第111回総会において決定されましたが、政府としても、本年6月30日の閣議において、これらの会議を日本で開催すること及び所要の措置を講ずることを了解しましたので、お知らせします。

平成5年度の共同主催国際会議の閣議了解

1. 日本学術会議では、昭和28年9月の国際理論物理学会議、昭和30年の国際数学会議の開催以来、平成3年度までに123件、本年度も6件の国際会議を関係の学会と共同して開催し、我が国のみならず世界の学術水準の向上に努めてきたところである。平成5年度にも、下記の6会議の共同開催を既に平成3年5月に決めているが、本年6月30日、政府全体としても、これらの会議の開催とこれについての所要の措置（会場・警備・入国手続き上の配慮・予算措置等）を講ずる旨の閣議了解を行った。

- (平成5年度開催会議)
  - ・アジア社会科学協議会連盟第10回総会  
平成5年9月5日から11日（川崎市・かながわサイエンスパーク）
  - ・第15回国際植物科学会議  
平成5年8月23日から9月3日（横浜市・横浜国際平和会議場）
  - ・第7回太平洋学術中間会議  
平成5年6月27日から7月3日（沖縄県宜野湾市・沖縄コンベンションセンター）
  - ・第24回国際電波科学連合総会  
平成5年8月23日から9月3日（京都市・国立京都国際会館）
  - ・第21回国際純粋・応用物理学連合総会  
平成5年9月20日から25日（奈良県奈良市・奈良県新公会堂）
  - ・第6回国際気象学大気物理学協会科学会議及び第4回国際水文科学協会科学会議合同国際会議  
平成5年7月11日から23日（横浜市・横浜国際平和会議場）

(閣議了解の内容)

[各国際会議ごとに了解]

- 1 (各会議名)を(共同主催学会名)と共同して平成5年度に我が国において開催すること。
  - 2 関係行政機関は、上記会議の開催について所要の措置を講ずること。
2. なお、国際会議共同主催の申請から決定までのスケジュールはおおむね次のようになっている。
- ・会議開催3年前(年末まで)申請募集
  - ・会議開催2年前(2-3月頃)

関係部会、運営審議会附置国際会議主催等検討委員会でのヒアリング等

(3-4月頃)

運営審議会での決定、総会への報告

・会議開催1年前

(6-7月頃)

閣議了解(政府としての共同主催正式決定)

共同主催学会との合意書締結、組織委員会の発足

現在本年年末締切りの平成7年度共同開催会議の募集を広報しているところである。(詳細は、日本学術会議月報をご覧ください。)

日本学術会議主催公開講演会

本会議では、毎年公開講演会を開催しています。この講演会は会員が講師となり、一つのテーマを学際的に展開しています。この秋には二つの講演会の開催が決まりましたので、お知らせします。多数の方々のご来場をお願いします。入場は無料です。

I 公開講演会「20世紀の意味と21世紀への展望」

日時 平成4年10月5日(月)13:30~16:30

会場 日本学術会議講堂

演題・演者

- 「国際政治の観点からー『長い平和』は持続可能か」  
永井陽之助 第2部会員  
(青山学院大学教授)
- 「文明論的観点から」  
弓削達 第1部会員  
(フェリス学院大学学長)
- 「科学・技術の観点から」  
伊達宗行 第4部会員  
(大阪大学理学部長)

II 公開講演会「医学からみた日本の将来」

日時 平成4年11月28日(土)13:30~16:30

会場 金沢市文化ホール 大集会室

金沢市高岡町15-1 TEL 0762-23-1221

演題・演者

- 「子どもたち」  
馬場一雄 第7部会員  
(日本大学名誉教授)
- 「成人病」  
五島雄一郎 第7部会員  
(東海大学教授)
- 「医療技術の開発」  
渥美和彦 第7部会員  
(東京大学名誉教授)
- 「食物と栄養」  
内藤博 第6部会員  
(共立女子大学教授)
- 「医療制度の将来」  
下山球二 第2部会員  
(大東文化大学教授)

## 物理学研究連絡委員会報告 「物理学研究の動向と将来への課題」

7月24日の運営審議会において標記の報告の公表が承認された。1970年代から1980年代にわたって、日本の物理学の研究動向、研究環境を、かなり厳しい批判的スタンスで蒐集した客観的データに基づいて分析し、1990年代における日本の物理学の課題を展望しようとする野心的な報告である。日本の物理学研究・教育の将来を論ずるための不可欠の資料といえる。A4版112ページにまとめられており、日本物理学会の協力を得て、同学会誌別刷の形で関係者に公開される予定である。

本報告は、もともと第14期物理学研究連絡委員会が、久保亮五委員長の提案に基づいて「物理学の研究・教育に関する調査小委員会」（委員長岡洋介京大基研所長、幹事中井浩二高エネ研教授、委員小林俊一東大理、鈴木洋上智大理I、玉垣良三京大理、平田邦男山梨大教育、小沼通二慶大理の各教授）を設置してデータの蒐集・分析・要約を1990年7月から1991年5月にわたって精力的に行い、1990年6月20日の物理学研究連絡委員会全体会議に提出されたものである。第14期物研連任期終了に伴い、報告書及び今後の進め方についての取扱いを次期物研連への引継事項とした。これを受けて、第15期物理学研究連絡委員会は1992年5月22日の全体会議において本報告の取扱いについて協議し、公表を決定して中嶋貞雄委員長を通じて7月7日の第4部会の了承を求め、運営委員会に提案することとなった次第である。

本報告書が、日本の物理学の研究・教育に関心を寄せる多方面で活用されることを期待したい。

## 物理学研究連絡委員会報告 「理論物理学の研究体制の充実について」

7月24日運営審議会において標記の報告の公表が承認された。湯川秀樹博士のノーベル賞受賞にちなんで初の全国共同利用研究所として設置された京都大学基礎物理学研究所と一般相対論のユニークな研究で知られる広島大学理論物理学研究所は、1990年に統合され、内外の期待を集めつつ、理論物理学の総合的研究を目指す拡充・強化された基礎物理学研究所として再発足することとなった。しかし、現実には分野間の均衡が十分でなく、また北白川と宇治に建物が分離されている等、統合の実を十分に挙げ得ない現状である。

1992年5月22日の物研連全体会議は、このような状況の改善が速やかに改善され、理論物理学における日本の輝かしい伝統が復活されるよう、関係各方面に報告、支援を要請することとなった。

## 材料工学研究連絡委員会報告 「繊維工学研究・教育に関する諸問題」 産・学協力による繊維工学研究と教育の振興

わが国の繊維産業はかつて、日本を支える大産業であった。石油危機、貿易摩擦などによって低迷を余儀なくされた時期もあったが、今日では先端産業の要素技術ともなっ

て、その裾野を拡大し、また新組織に象徴されるような高度機能商品を開発し、日本は世界のトップレベルに行く繊維技術国となった。現在繊維産業の従業員数は280万人、総取引額は約64兆円に達し、日本産業の中でも上位を占める基幹産業となっている。

この繊維産業を支える繊維科学技術教育を見ると、かつて国立大学には3つの繊維学部と、染色化学・加工学を含めて19の繊維関連学科があったが、産業構造の変化と共に改組転換されて、今日では繊維系学生の定員50人と激減するに至っている。大学院教育では、繊維学研究科の名称は一時期全廃された。その後、産・学の強い要望によって、平成3年に信州大学工学研究科に、繊維生物機能科学、繊維機能工学、繊維極限材料工学の3大講座が唯一設置されるに至った。

ところが、繊維産業の将来は、世界人口の増加、発展途上国の1人当たりの繊維消費量の増加から、繊維需要は膨大な成長力を秘めている。さらに、消費者主導型経済社会となって、ファッションにも、色、柄、デザインに加えて高機能性と加工技術が重要となってきている。また、繊維素材から最終商品までをシステム化した生産・物流技術、産業資材用途の拡大、地球環境改善への用途開発への期待高性能スーパー繊維による航空・宇宙、海洋、原子力、土木・建築分野への貢献、光ファイバーによる情報通信分野、中空糸による人工腎臓、酸素濃縮などヘルスケア分野、海水脱塩造水など先端分野でも重要な産業として自立しつつある。

こうした繊維産業発展の基礎となる高度技術の開発を促進し、その力を次世代へと継承させるためには、高度に訓練・教育された人材の育成が不可欠である。我が国にとって、繊維科学技術の研究・教育機構の再構築は焦眉の急となっている。これに対して、欧州ではEC統合を控え、各国の特徴に応じ産学協力し、繊維系大学の単位互換制度を指向するなど、繊維技術教育の再活性化に成功している。米国では繊維関連大学が十数校もあり、その中でノースカロライナ州立大学を繊維科学技術教育のセンターとして、ニューヨーク州立ファッション工科大学をアパレル・ファッション教育のセンターとして位置付けて、全世界へ人材を送り出している。

我が国で、産学協力して設立する機構としては、全国繊維関連大学、研究所、及び地域産業を結ぶ役割を持ち、我が国の優れた繊維工学知識の世界への発信と、国際的人材育成への寄与のため、欧州、米国と並ぶ、東アジアの繊維科学・技術の中心機構として活動することが望まれる。

この活動は、我が国に全世界の人々から期待されている国際貢献の一つとなろう。

御意見・お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291

日本分子生物学会 会報

年3回刊行（6月・11月・2月）

第43号（1992年11月）

発行：日本分子生物学会 庶務幹事

製作：学会センター 関西

（財）日本学会事務センター 大阪事務所